



最近、世間で「ベット君」というのが話題になっている。女の言いなりになり、まるで飼いならされたベットのようになり、可愛がれる男を意味するのだそうだ。そして、その代表的なパターン例に挙げられるのが、年下の男と年上の女というカップル。

さて皆さん。私ときたら、このコラムに、年下の男が好きだと、しつこいくらいに書いているので、きつと丸岡泉穂も年下の坊やたちを「ベット君」として可愛がっているに違いない！と思っているかもしれませんね。しかし、それは大きな間違いである。

たしかに私は早くも14歳の時に、2つ年下の（ついで数ヶ月前までは小学生だった）インベくんを恋をして、無惨にも振られて以来、年下の男の子に執着してきたというシガネ入りの、年下フリック、ではあるけれど、ただの一度も、彼らを「ベット君」にしたいと思つたことなどなかったし、それ以前に、「ベット君」の座におとなしくおさまってくれそうな相手を選んだりしなかった。

私の好きな年下の男の子というのは、わがままで、自分勝手に、ちっとも私の思い通りになってくれない奴なのだ。

そりゃあ私だって、女友達とクラブに行けば、「おねえさん、遊んでくださいよ」と厚かましくもすり寄ってくる「ベット君候補」に出会つなければ、どんなにそれが美しい坊やだったとしても、シッシツと追い払いたくなくて

しまつわ。

だいいち、そんな物分かりの良い男の子を相手にして、おもしろいかしら？すべて私の言いなりの、神秘的なところなどない男の子にエサを与えて、可愛がるのが楽しいかしら？

私の好きな作家、フランソワーズ・サガンや森瑤子さんは、その作品の中で、年上の女とジゴロ（年下の美貌の男）との関係を描いているけれど、男は決して「ベット君」ではない。お金がない癖に、プライドは人一倍高い。女に買われているけれど、だからと言って「決して僕はあなたのものではない」という態度をちらつかせる。たとえばパーティーなどで、女が彼を所有していることを匂わせる言動を取ろうものなら、すぐさま立ち去ってしまうだけの冷酷さを持っている。そんな男たちだ。社会的にも、二人の力関係だけを見ても、強いのは明らかに年上の女のはずなのに、女はいつも内心で、彼が去ってしまうことを恐れ、びくびくしている。そして、彼が自分だけのものであってくれたら・・・と引き裂かれるような思いを抱いている。

私自身は小説の世界のように、年下のジゴロを囲うだけの財力も自信もないけれど、ボーイフレンドとして付き合いたいのは、私を振り回すような男の子だ。

「久しぶりにデートでもしない？」と誘うと、「あなたは他に誘う男がたくさんいるでしょう？」などと返ってくる。もちろん私は、内心で「そんな男はいないわよ！だいいち、あなた以外の男は誘いたくもないんだから！」と思つていることなどオクビにも出さず、「そうね。じゃあ、また今度」とさらりと返してしまふ羽目に陥る。普段彼は、一貫してそういうクールな態度を取っているけれど、私が彼を完

全に突き放したくなると、急に「僕は泉穂さんが好きですよ」と言つたりする。年下でありながら私と「駆け引き」ができる天性の才能を持っている男の子がいたいと思う。私にとっては、尻尾を振つてついでに「ベット君」なんて、全然魅力的じゃないのだ。

恋愛講座でこんなコトを書いたらイケナイと思つけれど、本当は恋愛なんて、誰かが書いたエッセイを読んで勉強するようなことじゃないのだ。男と女の組み合わせの数だけノウハウがあるのだから、私のケースがあなたのケースにそのまま当てはまるなんてことはあり得ない。じゃあ、どうすればいいのよ？と、今、叫んだあなた。結局は、経験するしかないのだ。一つの恋愛は、何十冊の本を読んでも、いろいろなことをあなたに教えてくれると思う。そして、困難な恋愛ほど、あなたを素敵な女にしてくれるものだ。

だから、「ベット君」はたしかに便利かも知れないけれど、それで女が上がるなんて思つたら大間違い。イージーな恋愛は、なかなか女を成長させてくれないものなのだ。

いいよ、私は、ベット君をはべらせて、楽チンに生きていけたら、それでいいの、と反論された方。そう言われてしまつたら、返す言葉もありません。そういう方は、私の恋愛講座を読む必要もありませんね。勝手にがんばってください。

【プロフィール】  
1965年生まれ。同志社女子大学卒、(株)電通ブックス勤務を経て、現在コピーライター。広告のほかFMラジオ番組のシナリオや出演もこなす。著書に「ありふれた無邪気が罪になる」(PHP研究所)、「キスまで待てない」(大和書房)など。

MARUOKA IZUHO

PARADISE  
YAMAMOTO

【プロフィール】  
元東京バナナマンゴボーイズのリーダー。富士重エデザインセンターでカーデザイナーとして活躍。現在マンガ画家のソリマチアキラらと東京ラテンムードテラックスで東京の音楽シーンの人気者。自身の選曲・監修による東京ダンスホールテラックスシリーズ(東芝EMI)もダンスファン、渋谷系の若者に人気。

